

日々の学校生活の中で、子供たちは思いどおりにならない出来事や小さな失敗に数多く出合っています。その姿を見つめる中で、ただ強くなることや我慢することだけではなく、状況を柔らかく受け止めながら、簡単には折れずに前へ進む力の大切さを改めて感じるようになりました。揺れ動く時代を生きる子供たちにこそ、「しなやかさ」と「したたかさ」を併せもつ生き方を伝えたい——そんな思いを込めて、保護者皆様におけた新年のメッセージとすることにいたしました。

\*\*\*\*\*

### 新しい年のはじまりに ~しなやかに、したたかに~

新しい年を迎え、皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

冬の寒さの中、本日、三学期が始まりました。三学期はこの一年をまとめ、来る春に向けて歩みを進めていく、とても大切な時期です。子供たちと皆様が、変わらず健やかに、そして穏やかにこれからの日々を送られますことを、心からお祈り申し上げます。

さて、新しい年のはじめに、皆様と分かち合いたい言葉があります。それは、「しなやかに、したたかに」という言葉です。

ブラウン管から流れる、美しい歌手の伸びやかな澄んだ歌声。その歌手は、山口百恵という当時の大スターで、「しなやかに歌って」と繰り返す姿は、幼い私の心を優しくつかみました。そして、その歌のように、さまざまなものを柔らかく包み込み、前を向いて自分らしく確かに進んでいく彼女の姿に、憧れを抱きました。彼女の気高い姿は今でも私の脳裏に残り、「しなやかでありたい」という思いへとつながっています。

「したたか(強か)」とは、状況によってはネガティブなニュアンスで使われることもありますが、打たれ強く、簡単には屈しないことを意味します。「強くありたい」と願った若い頃、「『強い』とは何か」と自問する中で、他との調和を図りながらも、自分の思いを大切に、粘り強く折れない心をもってさまざまなことに明るく向き合っていくことを、「したたか」と捉えるようになりました。

ですから、私が分かち合いたい「しなやかに、したたかに」という言葉は、激しく主張することでも、ただただ我慢を重ねることでもなく、さまざまな状況を柔らかく受け止めながら、一步一步着実に、自分なりの歩みを続けていく姿勢を示しています。

かの発明家エジソンは、発明の過程で失敗を指摘された際、「うまくいかない方法を一つ学んだだけだ」と語ったと伝えられています。この姿勢は、「しなやかさ」と「したたかさ」を併せもった彼の生き方を表していると、本日、子供たちにも伝えたいところです。

学校生活の中で、子供たちは日々、小さな壁に出合っています。友達との行き違い、考えが通らなかった経験、思うような結果が得られなかった出来事。その一つ一つが、心を揺らしながらも、考え直し、立ち止まり、また歩き出す力、「しなやかさ」と「したたかさ」を少しずつ育てていきます。そのようなとき、私たち大人に求められているのは、急いで答えを示すことではなく、その歩みを信じ、そっと寄り添うことなのだと思います。

学校は、子供たちが安心して挑戦し、失敗を重ねながら成長できる場所でありたいと考えています。そのためには、保護者や地域の皆様と、子供を見つめるまなざしや願いを静かに、そして確かに共有し、共に支えていくことが欠かせないと思っております。子供たち一人一人が「しなやかに、したたかに」伸びていけるよう、学校とご家庭が手を取り合い、共に支えていければと願っております。

本年も引き続き、変わらぬご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。